



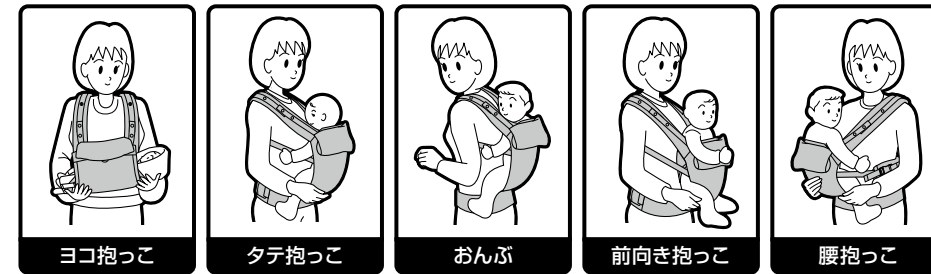
抱っこひも

コランハグ〈ライト〉

取扱説明書／保証書

このたびは、アプリーカ製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この製品は新生児※から体重15kgまでのお子さま1人用抱っこひもです。

※ここでの新生児とは在胎週数37週以上で、かつ出生時の体重が2.5kg以上で生まれた乳児をいいます。



- ・腰ベルトサイズ：74cm～118cm。
- ・体型によって冬場など厚着の時には使用できない場合があります。

ご使用の前に、取扱説明書(本書)をよくお読みのうえ正しくお使いください。
本書に記載されている以外の方法でご使用されると、製品の機能が充分発揮できないだけでなく大変危険です。本書をお読みにになった後は、いつでも取り出せる場所に必ず保管してください。

もくじ	
ご使用前に	
抱っこひもについて	1
表示内容について	1
使用できるお子さまの月齢について	1
安全にお使いいただくために	2
ご使用上の注意	3-4
製品を取り出した時に	5-6
バックルの使い方	7
ベルトの調節方法	7
ヨコ抱っこ〈新生児から首すわり 体重7kgまで〉	
ヨコ抱っこの準備	8-11
ヨコ抱っこの装着方法	12-14
ヨコ抱っこの使用時	15
ヨコ抱っこの降ろし方	15
タテ抱っこ〈首がすわってから 体重13kgまで〉	
新生児シートの取り外し方	16-17
ハーネスの使い方	17
タテ抱っこの準備	18
タテ抱っこの装着方法	18-21
月齢が小さい時	22
おやすみカーテン	22
おんぶ〈首がすわってから 体重15kgまで〉	
おんぶの装着方法	23-25
タテ抱っこからおんぶへ	25-27
おやすみカーテン	28
月齢が小さい時	29
おんぶの降ろし方	29
前向き抱っこ〈ひとり座りができてから 体重13kgまで〉	
前向き抱っこの装着方法	30-32
前向き抱っこの降ろし方	32
腰抱っこ〈ひとり座りができてから 体重15kgまで〉	
腰抱っこの装着方法	33-35
その他	
Q&A	36-37
点検について	38
お手入れについて	38
SGマーク制度について	39
保証とアフターサービスについて	40
MEMO	41
保証書	42

ニューウェルブランズ・ジャパン合同会社

〒108-0023 東京都港区芝浦4-9-25 芝浦スクエアビル
ベビー用品 お客様サポートセンター TEL 0120-415-814 携帯電話からご利用の場合(通話料お客様負担) TEL 0570-004-155

抱っこひもについて

- ・この製品は、お子さまを抱っこやおんぶして、外気浴、買い物の時などに使用するための1人用抱っこひもです。
ご使用前にP5「各部の名称」をご確認ください。

表示内容について

- ・「警告」、「注意」の表示は、これらの注意事項が守られなかった場合に予想される、危害・損害の切迫度の大きさにより区分したもので、大変重要な内容です。必ずお守りください。

表 示	表 示 の 内 容
 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が生じる可能性が想定される内容です。

表 示	表 示 の 内 容
	製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止しています。

使用できるお子さまの月齢について

- ・お子さまの発育は個人差がありますので月齢表示は目安にしてください。

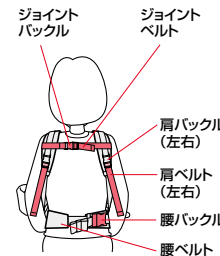
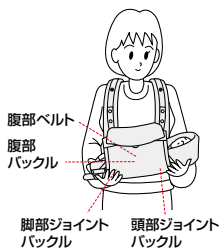
参考月齢	0カ月	首すわり (4カ月)	ひとり座り (7カ月)	24カ月	36カ月	体 重
ヨコ抱っこ	新生児シート使用 2.5kg 新生児から(4カ月頃まで)					7kgまで
タテ抱っこ	首がすわった4カ月から24カ月(体重13kg)まで					13kgまで
前向き抱っこ	ひとり座りができる7カ月から24カ月(体重13kg)まで					13kgまで
腰抱っこ	ひとり座りができる7カ月から36カ月(体重15kg)まで					15kgまで
おんぶ	首がすわった4カ月から36カ月(体重15kg)まで					15kgまで

※お子さまの衣類の厚みや体格によっては使用できない場合があります。

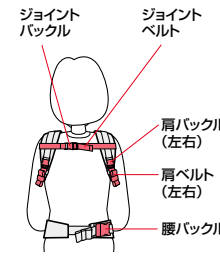
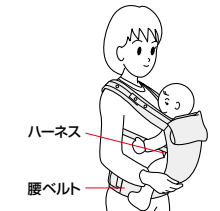
安全にお使いいただくために

- ・ご使用の際は、バックルを必ずとめてください。
- ・ベルトの長さを装着者の身体にあわせて、調節してください。
- ・脚部を露出したお子さまに使用された場合、肌に抱っこひもの跡がついたり、稀に肌がこすれて赤くなることがあります。その場合は、肌の露出部を覆う服を着せるか、露出部にタオルなどを当てて、抱っこひもに直接触れないようにしてください。

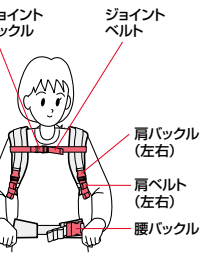
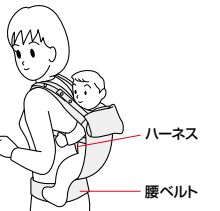
ヨコ抱っこ



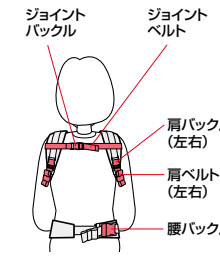
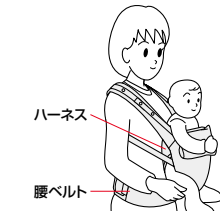
タテ抱っこ



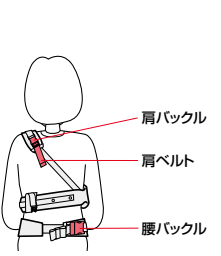
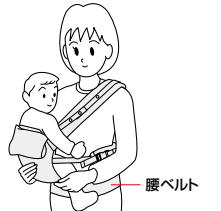
おんぶ



前向き抱っこ



腰抱っこ



警告

- ・ご使用の際は頭部ジョイントバックル、腹部バックル、脚部ジョイントバックル、肩バックル、腰バックル、ジョイントバックルを外した状態で使用しない。**お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。**
- ・ベルトの長さを装着者の身体にあわせて調節する。**お子さまと装着者の間にすき間がありすぎると、お子さまの予期せぬ動きに対応できず落下し、思わぬ事故やけがをするおそれがあります。**
- ・タテ抱っこ、おんぶ、前向き抱っこでの使用時は、ハーネスを外した状態で使用しない。**お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。**

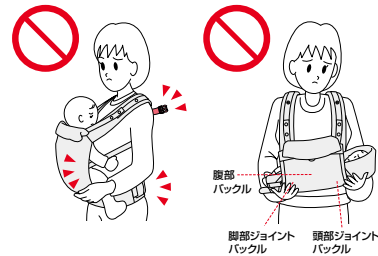
ご使用上の注意

ここに記載した内容は非常に重要です。よくお読みになり、必ず守ってください。

警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

抱っこひもの肩バックル、ハーネスバックル、腰バックル、ジョイントバックルおよび、新生児シートの頭部ジョイントバックル、脚部ジョイントバックル、腹部バックルを外した状態で使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。



肩ベルト、腰ベルト、ジョイントベルトは必ず調節し、緩めた状態で使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。



ヨコ抱っこでの使用時は、お子さまの頭が下がらないように左手で支える。お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。



走ったり、跳んだり、前かがみなどの無理な姿勢をとらない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。



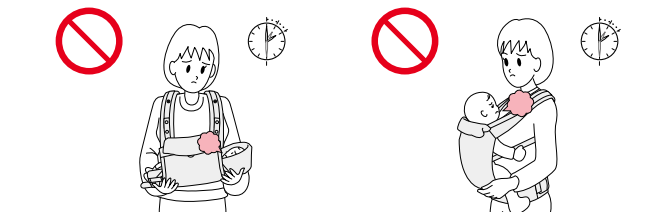
タテ抱っこ、前向き抱っこ、おんぶ、腰抱っこは首のすわらない、お子さまに使用しない。お子さまが体調を損なうおそれがあります。



タテ抱っこ、おんぶ、前向き抱っこ、腰抱っこの使用時は、お子さまが反り返ったり、体を丸めて抱っこひものに潜り込み、両足が外に出ていないなど、不自然な姿勢をとらせない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。



授乳後30分以内は使用しない。お子さまのおなかを圧迫することがあり、消化吸収を妨げるおそれがあります。装着状況を確認する必要があるため、連続2時間以上使用しない。お子さま、装着者が体調を損なうおそれがあります。



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

・ヨコ抱っこでは新生児シートを外した状態で使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。
・ヨコ抱っこでは、体重7kgを超えるお子さまや寝返りのできるお子さまに使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。
・タテ抱っこ、前向き抱っこでは、体重13kgを超えるお子さまに使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。
・腰抱っこ、おんぶでは15kgを超えるお子さまに使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。
・装着者およびお子さまの体調がすぐれない時や、使用中に痛みや不快を感じた時は直ちに使用を中止してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
・お子さまの状態に注意しながら使用する。気道がふさがると窒息するおそれがあります。
・お子さまを乗せる時や降ろす時は、必ず安全な場所で行う。不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
・梱包袋(パッケージ)はお子さまがかぶらないよう放置しない。窒息する可能性があります。
・バックルは使用していない時も外したままにしない。お子さまがバックルに指を入れてけがをするおそれがあります。

・新生児シートは単体での使用や、他の抱っこひもに使用しない思わぬ事故につながるおそれがあります。
・生後4カ月未満の乳児は、装着者の身体に顔を強く押しあてた状態にしない。本製品内で窒息するおそれがあります。
・乳幼児を装着者の身体に強く縛り付けた状態にしない。乳幼児の頭部を動かす余裕があるように装着する。本製品内で窒息するおそれがあります。
・着脱する際は、お子さまの落下に注意し正しく装着する。乳幼児が開口部から落下するおそれがあります。
・おんぶや抱っこをする時や降ろす時は低い姿勢で行う。身体を傾ける際にお子さまが落下しないように気を付け、手で支える。またお子さまの頭が下向きにならない様に膝を曲げて腰を落とす姿勢で行うよう注意する。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。
・お子さまの気道をふさぐ事がないように状態に注意しながら使用すること。窒息や思わぬ事故につながるおそれがあります。
・お子さまの顔が強く装着者の胸につき、気道をふさぐ状態で使用しない。気道がふさがると窒息するおそれがあります。
・料理など家事をする際は、お子さまの様子に注意する。家事に気をとられ、お子さまのやけどなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

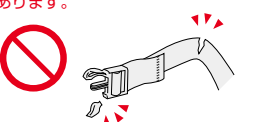
ヨコ抱っこでは、必ず新生児シートを取り付ける。
お子さまの気道がふさがると窒息するおそれがあります。



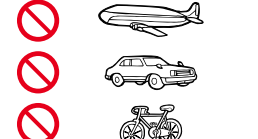
ベルトの先端の返し縫い部をほどこし、切り落としたりしない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。



バックルなどの部品が破損したり、ベルトや生地などに破れ、ほつれ、きずがある状態では使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。



飛行機、車、自転車、バイクでは使用しない。思わぬ事故につながるおそれがあります。



ヨコ抱っこでの使用時は、お子さまの顔が下がらないように左手でさえる。お子さまが落下したり思わぬ事故につながります。



注意

誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が生じる可能性が想定される内容です。

装着者およびお子さまの体調がすぐれない時や、使用中に痛みや不快を感じた時は直ちに使用を中止してください。

抱っこでは足元が見えにくくなる場合がありますので歩行には充分注意してください。



暖房器具の近くなど高温になる場所に放置しない。



直射日光のあたる場所に保管しない。変色や劣化が早まります。



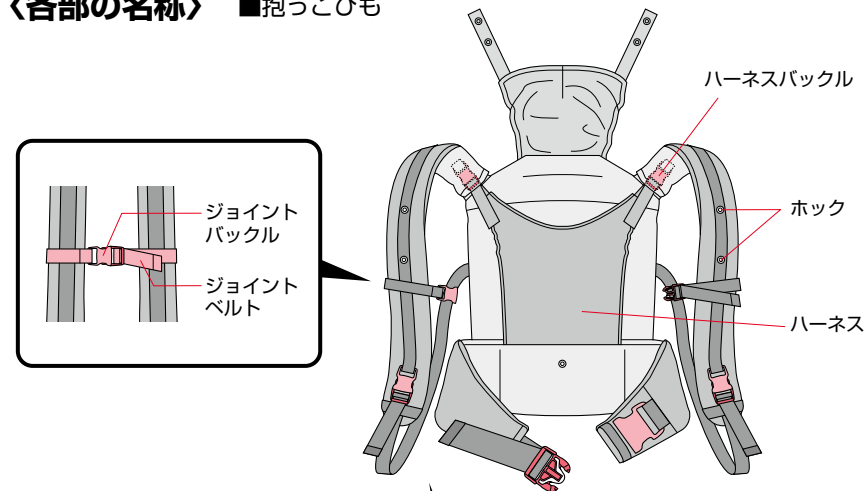
その他、荷物などの運搬や、お子さまを抱っこ、おんぶする以外の目的での使用。



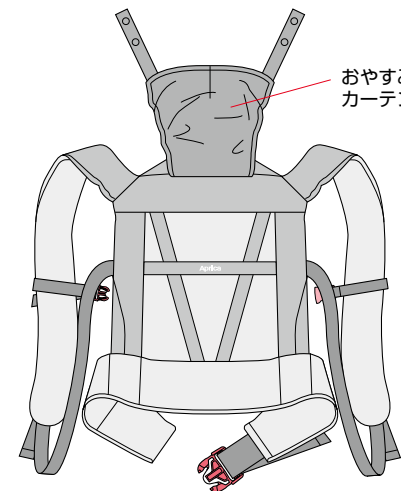
製品を取り出した時に

- ・製品を取り出した後は、部品が揃っているか、破損がないかを確認してください。
- ・欠品や破損の際は、弊社お客様サポートセンターまですみやかにご連絡ください。

〈各部の名称〉 ■抱っこひも

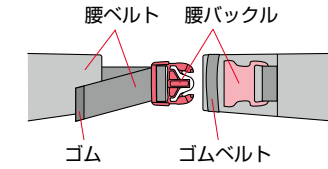
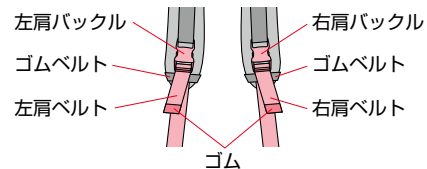


〈抱っこひも内側〉

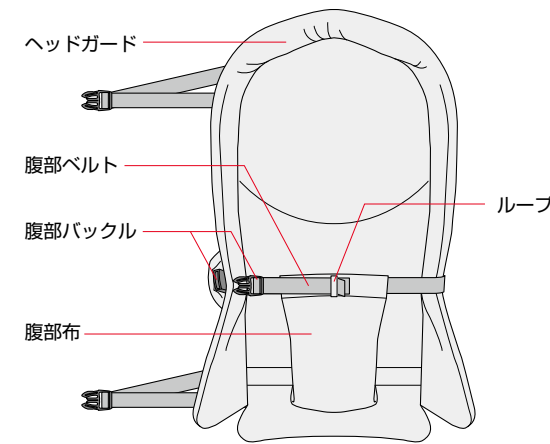


〈抱っこひも外側〉

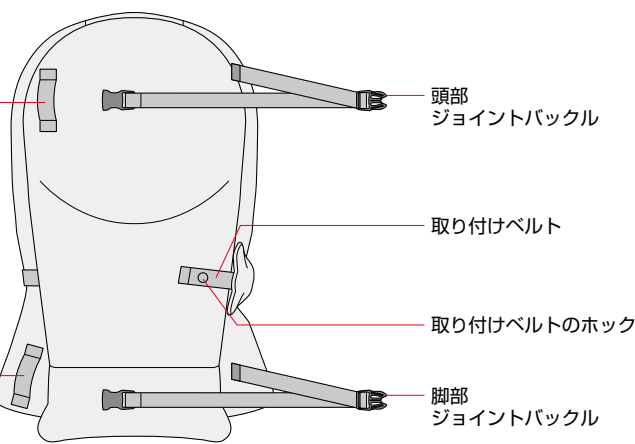
※品番・ロット番号は品質表示ラベルに記載されています。
品質表示ラベルは、腰ベルト裏側に縫い付けられています。



■新生児シート



〈新生児シート内側〉



〈新生児シート外側〉

〈付属品〉



取扱説明書(本書)

バックルの使い方

警告

- ・ご使用の際は頭部ジョイントバックル、腹部バックル、脚部ジョイントバックル、肩バックル、腰バックル、ジョイントバックルを外した状態で使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。
- ・ベルトの長さを装着者の身体にあわせて調節する。お子さまと装着者の間にすき間がありすぎると、お子さまの予期せぬ動きに対応できず落下し、思わぬ事故やけがをするおそれがあります。
- ・タテ抱っこ、おんぶ、前向き抱っこでの使用時は、ハーネスを外した状態で使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。
- ・バックルをゴムベルトに通しバックルをとめた後は、必ず、ベルトの先端をゴムベルトの上側に引き出す。

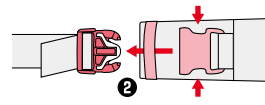
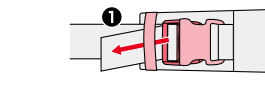
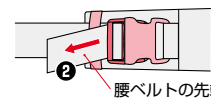
＜腰バックル・肩バックル＞

とめ方

- ①腰バックルをゴムベルトに通し、腰バックルをとめる。
- ②腰ベルトの先端をゴムベルトの上側に引き出す。

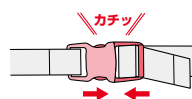
外し方

- ①腰ベルトの先端をゴムベルトに通す。
- ②腰バックルを外し、腰バックルをゴムベルトから抜き取る。

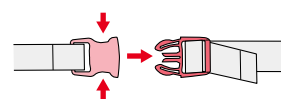


＜ジョイントバックル・ハーネスのバックル・腹部バックル＞

とめ方



外し方



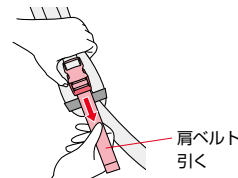
ベルトの調節方法

警告

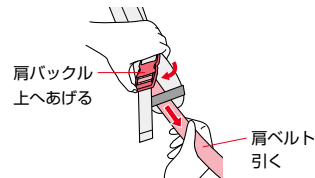
- ・ベルトの長さを装着者の身体にあわせて調節する。お子さまと装着者の間にすき間がありすぎたり、左右のベルトの長さが違うと、お子さまの予期せぬ動きに対応できず、落下し思わぬ事故やけがをするおそれがあります。

＜肩ベルト＞

短くする時

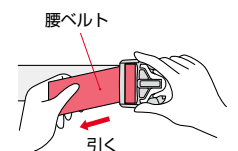


長くする時

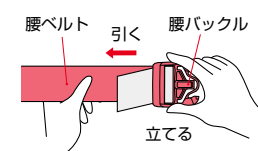


＜腰ベルト＞

短くする時

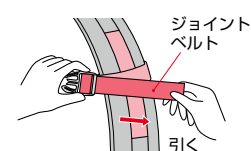


長くする時

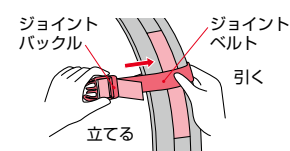


＜ジョイントベルト・ハーネスのバックルベルト・腹部ベルト＞

短くする時

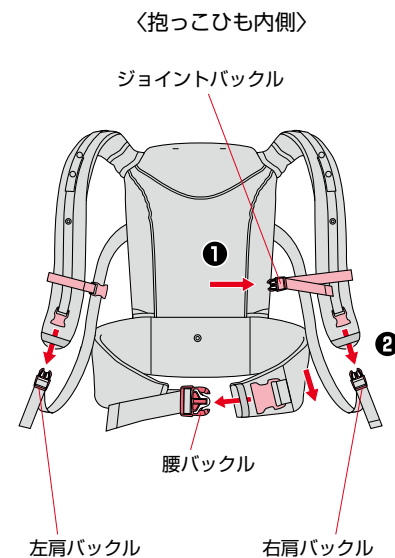


長くする時

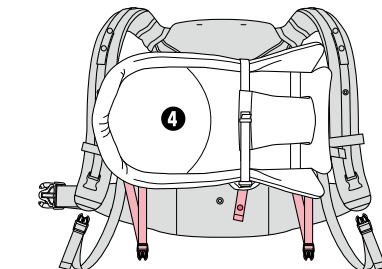
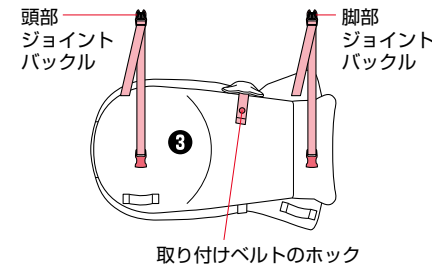


ヨコ抱っこの準備

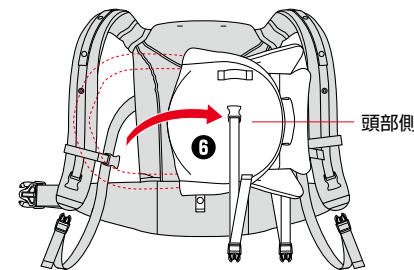
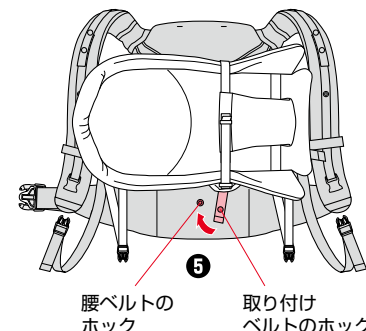
- ①安全な場所に抱っこひもを広げる。
- ②抱っこひもの右肩バックル、左肩バックル、腰バックル、ジョイントバックルを外す。



- ③新生児シートの頭部ジョイントバックル、脚部ジョイントバックルを外す。
- ④新生児シート（頭部が左側にくるように）を抱っこひもの上に横向きにのせる。



- ⑤取り付けベルトのホックを抱っこひもの腰ベルトのホックにとめる。
- ⑥新生児シートの頭部側を谷折りにする。



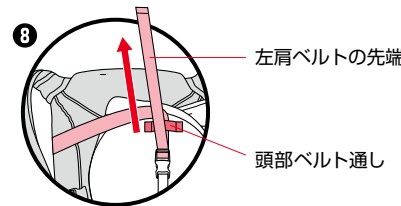
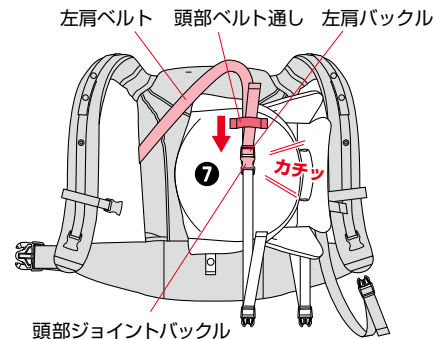
警告

- ・取り付けベルトのホックを外した状態で使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。

ヨコ抱っこの準備 (つづき)

⑦抱っこひもの左肩ベルトを伸ばし、左肩バックルをねじれないように新生児シートの頭部ベルト通しに通し、頭部ジョイントバックルにとめる。

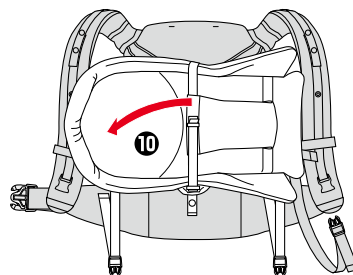
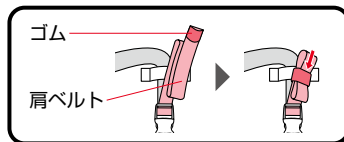
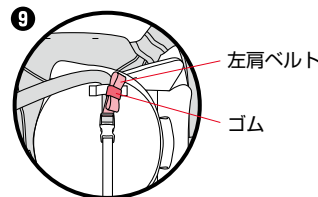
⑧頭部ベルト通しから左肩ベルトの先端を引き出し、左肩ベルトのたるみがないように調節する。



アドバイス

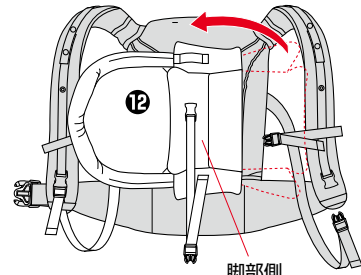
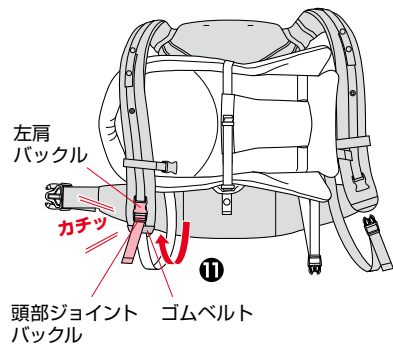
・左肩ベルトを短くするとヨコ抱っこ時に、新生児シートと本体がずれにくくなります。(P11 参照)

⑨あまった左肩ベルトをゴムでまとめる。
⑩新生児シートを戻す。



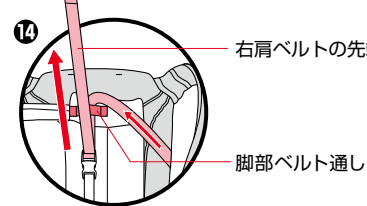
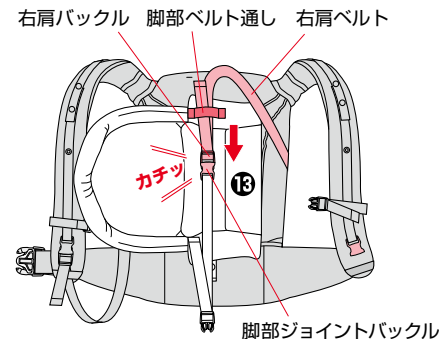
⑪頭部ジョイントバックルをゴムベルトに通し、ねじれないように左肩バックルにとめ、ベルトの先端をゴムベルトの上側に引き出す。

⑫新生児シートの脚部側を谷折りにする。



⑬抱っこひもの右肩ベルトを伸ばし、右肩バックルをねじれないように新生児シートの脚部ベルト通しに通し、脚部ジョイントバックルにとめる。

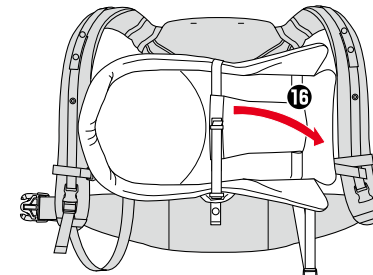
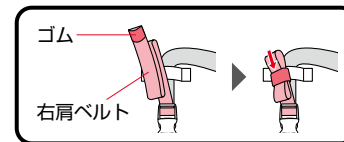
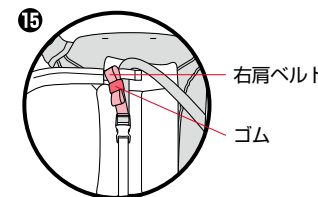
⑭脚部ベルト通しから右肩ベルトの先端を引き出し、右肩ベルトのたるみがないように調節する。



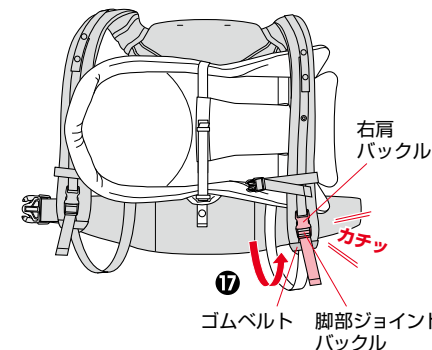
アドバイス

・右肩ベルトを短くするとヨコ抱っこ時に、新生児シートと本体がずれにくくなります。(P11 参照)

⑮あまった右肩ベルトをゴムでまとめる。
⑯新生児シートを戻す。



⑰脚部ジョイントバックルをゴムベルトに通し、ねじれないように右肩バックルにとめ、ベルトの先端をゴムベルトの上側に引き出す。



ヨコ抱っこ

新生児く首すわり 体重 7 kg

ヨコ抱っこ

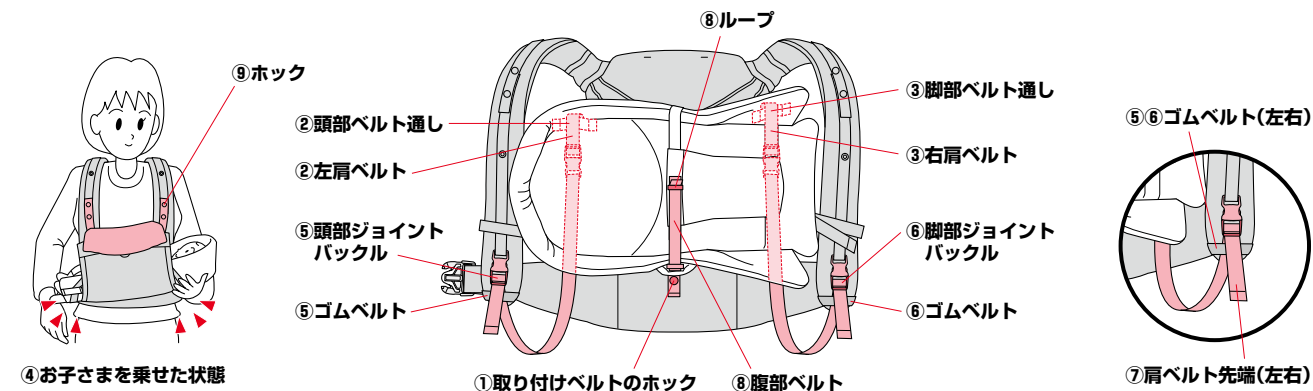
新生児く首すわり 体重 7 kg

ヨコ抱っこの準備 (つづき)

⑩ 新生児シートの取り付けの状態を確認してください。正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。

ヨコ抱っこの準備(新生児シート取り付け)の確認ポイント

- ① 取り付けベルトのホックを抱っこひもの腰ベルトのホックにとめている
- ② 左肩ベルトがねじれずに頭部ベルト通しを通過している
- ③ 右肩ベルトがねじれずに脚部ベルト通しを通過している
- ④ 左右の肩ベルトを短く調節する
- ⑤ 頭部ジョイントバックルがゴムベルトを通過とまっている
- ⑥ 脚部ジョイントバックルがゴムベルトを通過とまっている
- ⑦ 左右の肩ベルト先端がゴムベルトの上に出ている
- ⑧ あまった腹部ベルトの先端をループに通している
- ⑨ おやすみカーテンのホックを肩ベルトにとめる



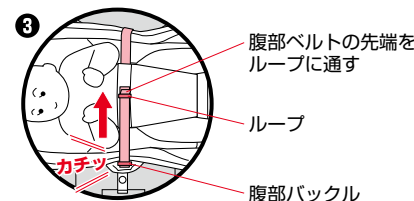
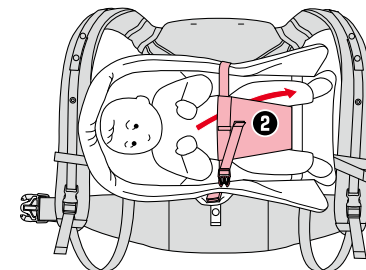
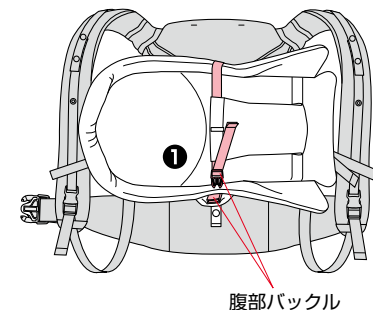
・取り付け状態を確認すること。
正しく取り付けしていないと、お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

ヨコ抱っこの装着方法

① 腹部バックルを外す。

② 安全な場所でお子さまを乗せて、左足を通す。
③ 腹部バックルをとめて、腹部ベルトを調節する。

④ 腰バックルをゴムベルトに通す。
⑤ 装着者の腰に腰ベルトをまわして腰バックルをとめる。

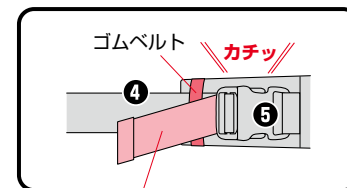
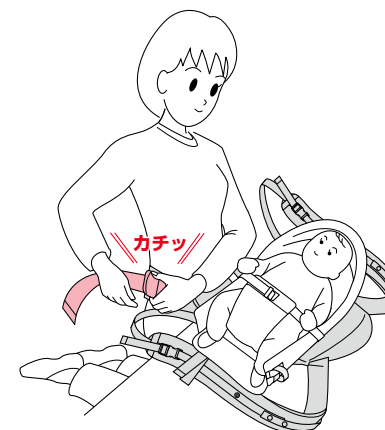


アドバイス

・お子さまのお腹周りは、大人の指が2〜3本入る程度に腹部ベルトを調節します。



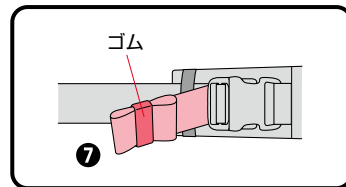
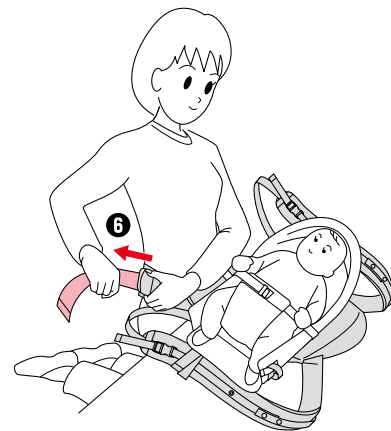
・お子さまを乗せる時は、必ず安全な場所で行う。
不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。



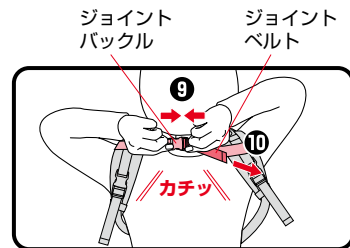
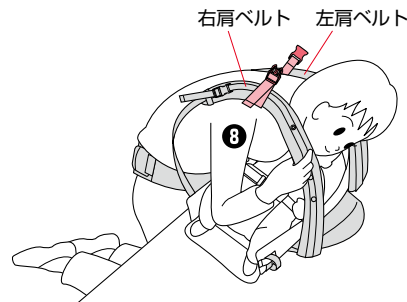
腰ベルトの先端をゴムベルトの上に出す

ヨコ抱っこの装着方法（つづき）

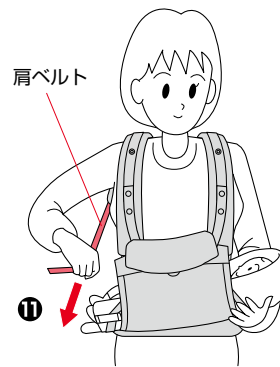
- ⑥腰ベルトが腰骨より高い位置にくるように調節する。
⑦あまったベルトをゴムでまとめる。



- ⑧前かがみになり、左右の肩ベルトに腕を通す。
⑨首の後ろでジョイントバックルをとめる。
⑩ジョイントベルトをきつめに調節する。



- ⑪お子さまの頭部を支えて、左右の肩ベルトを調節し、お子さまの位置を調える。



アドバイス

・肩や腰に負担がかかる場合は肩ベルト、腰ベルトを調節しなおしてください。

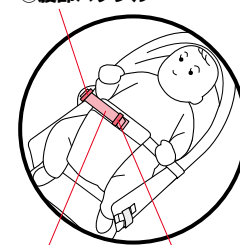
- ⑬鏡などに姿を映して、ヨコ抱っこの状態を確認してください。
正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。

ヨコ抱っこの確認ポイント

〈お子さま〉

- ①腹部バックルが確実にとまっている
②腹部ベルトを大人の指が2～3本入る程度に調節している
③あまった腹部ベルトの先端をループに通している

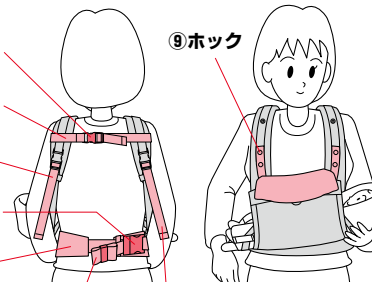
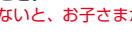
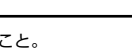
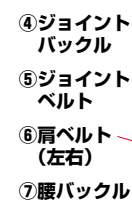
①腹部バックル



②腹部ベルト ③ループ

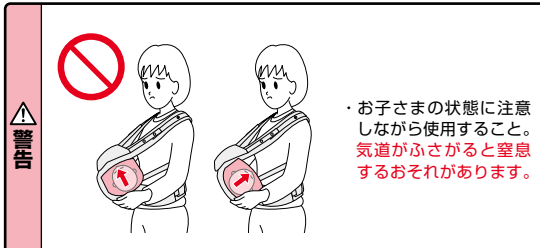
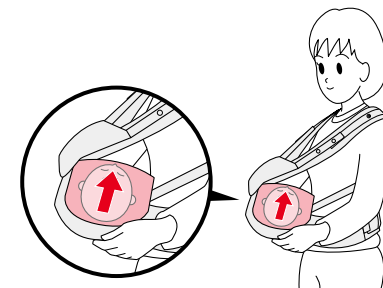
〈装着者〉

- ④ジョイントバックルが確実にとまっている
⑤ジョイントベルトをきつめに調節している
⑥肩ベルトを調節している
⑦腰バックルが確実にとまっている
⑧腰ベルトが腰骨の上にある
⑨おやすみカーテンのホックを肩ベルトにとめる
⑩肩ベルト・腰ベルトの先端はゴムベルトの上側に引き出している



〈新生児シートの角度〉

- ・お子さまの顔が少し内側に向くぐらいが最適です。



・お子さまの状態に注意しながら使用すること。
気道がふさがると窒息するおそれがあります。

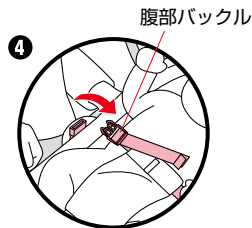
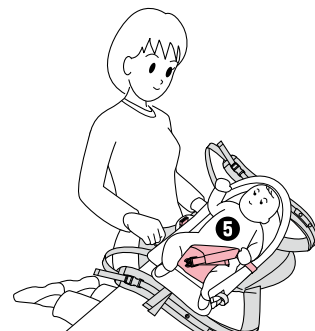
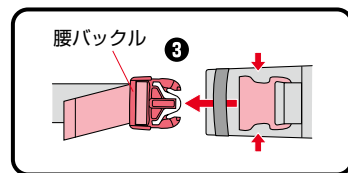
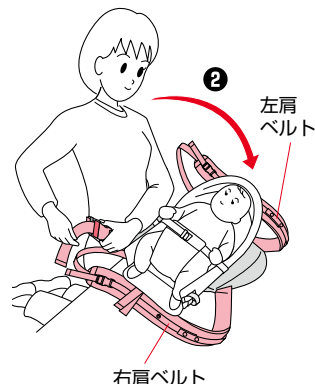
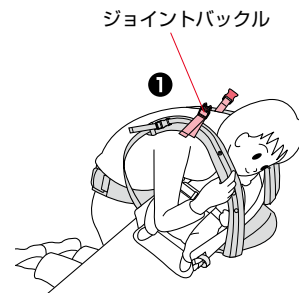
ヨコ抱っこ時の使用時 ヨコ抱っこの降ろし方

・ヨコ抱っこの使用時は、お子さまの頭が下がったり、装着者から離れないように左手で頭部を支えてください。

① お子さまを安全な場所に寝かせ、ジョイントバックルを外す。

② 抱っこひもの左右肩ベルトを装着者の肩から外す。
③ 腰バックルを取り外す。

④ 新生児シートの腹部バックルを取り外す。
⑤ お子さまを降ろす。



・ヨコ抱っこでの使用時は、お子さまの頭が下がらないように左手で支える。
お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。



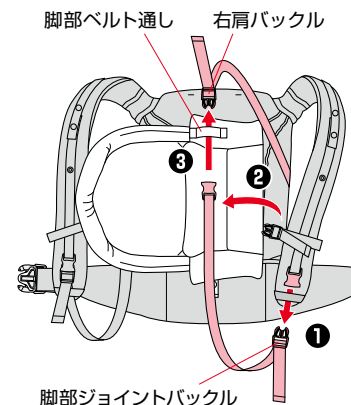
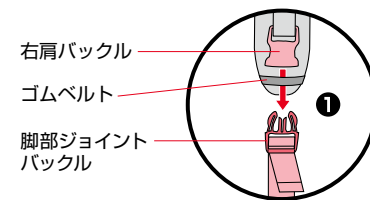
・走ったり、跳んだり、前かがみなどの無理な姿勢をとらない。
お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

・お子さまを降ろす時は、必ず安全な場所で行う。
不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。

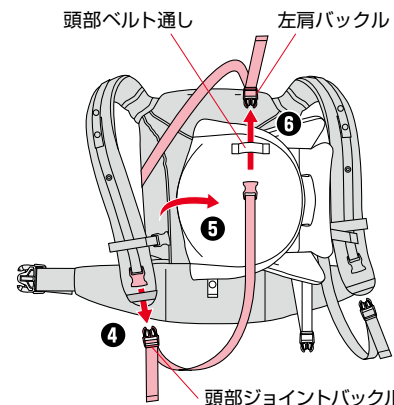
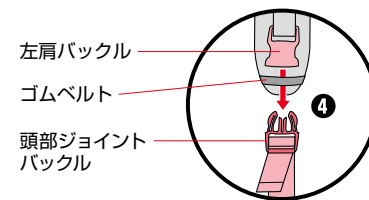
新生児シートの取り外し方

(つづく)

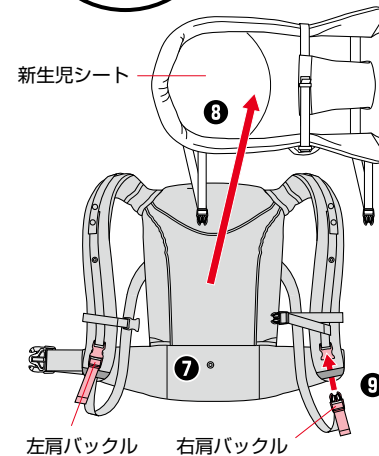
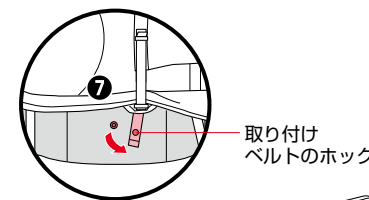
① 脚部ジョイントバックルを外し、ゴムベルトから抜き出す。
② 新生児シートの脚部側を谷折りにする。
③ 右肩バックルを外し、脚部ベルト通しから抜き取る。



④ 頭部ジョイントバックルを外し、ゴムベルトから抜き出す。
⑤ 新生児シートの頭部側を谷折りにする。
⑥ 左肩バックルを外し、頭部ベルト通しから抜き取る。



⑦ 取り付けベルトのホックを外す。
⑧ 新生児シートを取り外す。
⑨ 左右の肩バックルをねじれないようにとめ、ベルトの先端はゴムベルトの上側に引き出す。



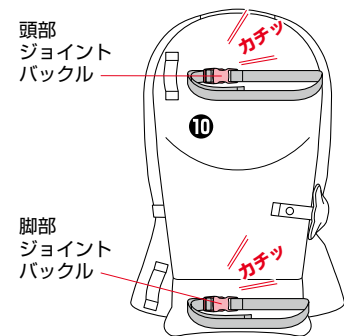
タテ抱っこ

首すわり〜体重 13 kg

新生児シートの取り外し方 (つづき)

- ⑩ 新生児シートの頭部ジョイントバックルと脚部ジョイントバックルをとめて、お子さまの手の届かない所に保管する。

※再度抱っこひもに取り付ける時は頭部ジョイントバックルと脚部ジョイントバックルを外してください。



・新生児シートを使用しない時は、頭部ジョイントバックルと脚部ジョイントバックルをとめる。
バックルのすき間に指が入って抜けなくなったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

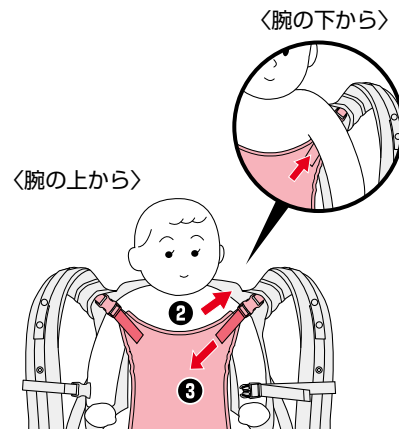
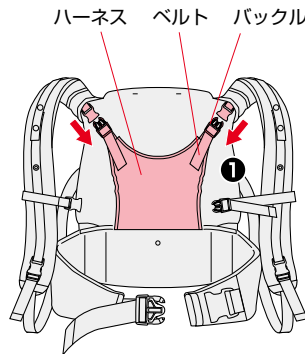


ハーネスの使い方

- ① ハーネスのバックルを外す。
- ② お子さまを乗せて、ハーネスのバックルをとめる。
- ③ ハーネスのバックルベルトを調節する。

アドバイス

・お子さまの成長に合わせて、ハーネスのバックルを腕の上から又は、腕の下からとめる。



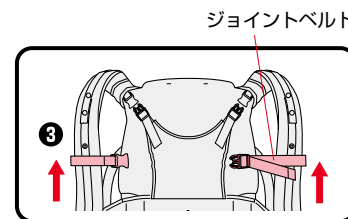
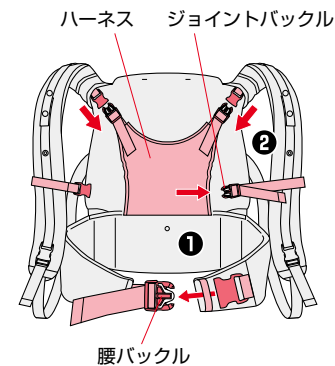
・お子さまを乗せる時は、必ず安全な場所で行う。不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
・ハーネスを外した状態で使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。

タテ抱っこの準備

- ① 腰バックルとジョイントバックルを外す。
- ② ハーネスのバックルを外す。
- ③ ジョイントベルトを上にはずらす。

アドバイス

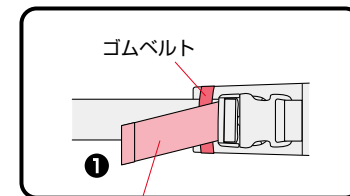
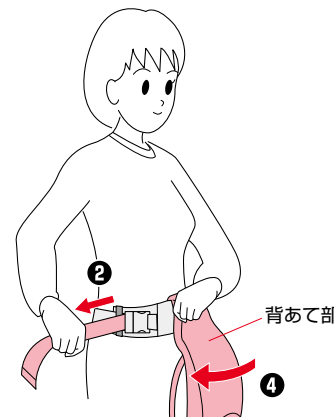
・ジョイントベルトを上にはずらすと、後で(P20 ⑩)首の後ろでジョイントバックルがとめやすくなります。



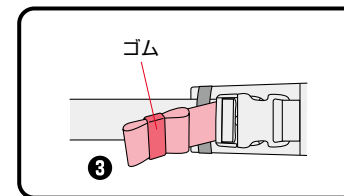
タテ抱っこの装着方法

(つづく)

- ① 腰バックルをゴムベルトに通してとめ、ベルト先端はゴムベルトの上側に引き出す。
- ② 腰ベルトを調節する。
- ③ あまったベルトをゴムでまとめる。
- ④ 背あて部を正面にする。



腰ベルトの先端をゴムベルトの上に出す



タテ抱っこの装着方法（つづき）

（つづく）

- ⑤抱っこひも本体を膝の上に広げる。
⑥ハーネスを手前にめくり上げる。

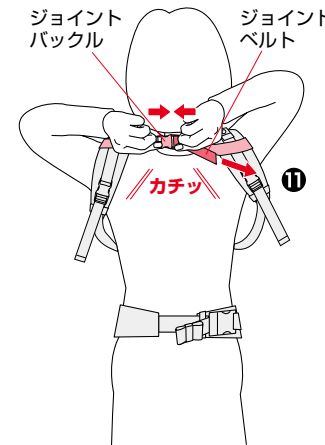
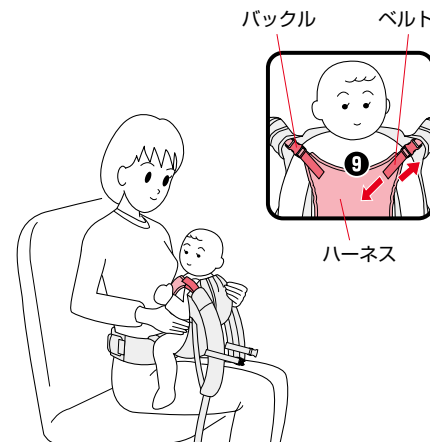
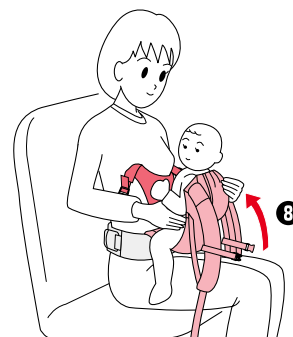
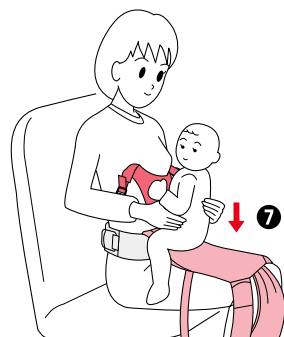
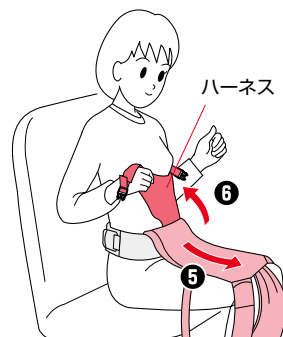
- ⑦お子さまを抱き上げ、本体とハーネスの間に乗せる。

- ⑧片方のお子さまを支え、抱っこひも本体をお子さまの背中にかぶせる。

- ⑨片方のお子さまを支え、ハーネスのバックルをとめ、ベルトを調節する。

- ⑩片方のお子さまを支え、左右の肩ベルトをかける。

- ⑪首の後ろでジョイントバックルをとめ、ジョイントベルトを調節する。



警告

- ・抱っこする時や降ろす時は低い姿勢で行う。身体を傾ける際に落下しないように気をつけ、手で支える。また頭が下向きにならないよう膝を曲げて腰を落とす姿勢で行うよう注意する。**お子さまが落下するおそれがあります。**
- ・着脱する際は、お子さまの落下に注意し正しく装着する。**お子さまが開口部から落下するおそれがあります。**
- ・お子さまを乗せる時は、必ず安全な場所で行う。**不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。**
- ・お子さまが反り返ったり、体を丸めて抱っこひもに潜り込み、両足が外に出ていないなど、不自然な姿勢をとらせない。**お子さまが落下したり、けがをするおそれがあります。**

警告

- ・ハーネスを外した状態で使用しない。**お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。**

警告

- ・お子さまを装着者の身体に顔を強く押しあてた状態にしない。**本製品内で窒息するおそれがあります。**
- ・乳幼児を装着者の身体に強く縛り付けた状態にしない。乳幼児の頭部を動かす余裕があるように装着する。**本製品内で窒息するおそれがあります。**
- ・お子さまの顔が強く装着者の胸につき気道をふさぐ状態で使用しない。**気道がふさがると窒息するおそれがあります。**
- ・お子さまの状態に注意しながら使用する。**気道がふさがると窒息するおそれがあります。**

タテ抱っこ

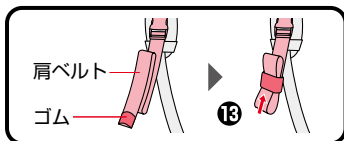
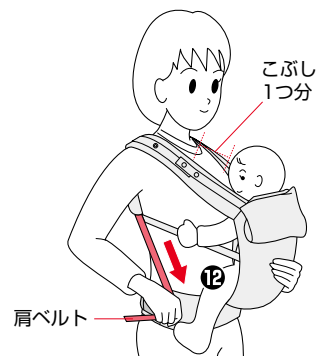
首すわり〜体重13kg

タテ抱っこ

首すわり〜体重13kg

タテ抱っこの装着方法（つづき）

- ⑫左右の肩ベルトをお子さまと装着者が
こぶし1つ分の距離になるまで調節し、
お子さまの位置を調える。
- ⑬あまったベルトをゴムでまとめる。



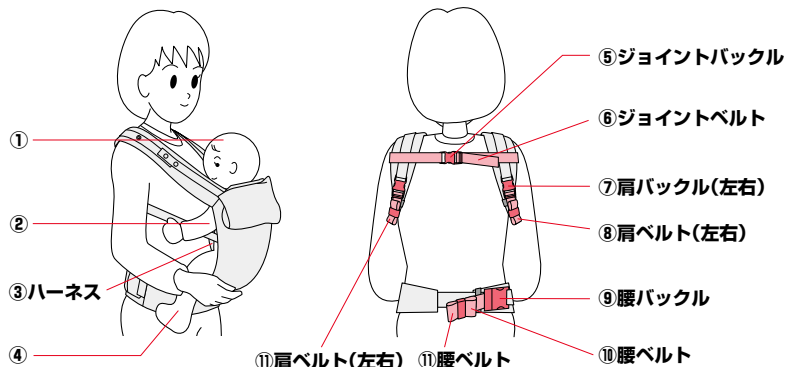
アドバイス

・肩や腰に負担がかかる場合は肩ベルト、腰ベルトを調節しなおしてください。

- ⑭鏡に映して、抱っこの状態を確認してください。
※正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。

タテ抱っこの確認

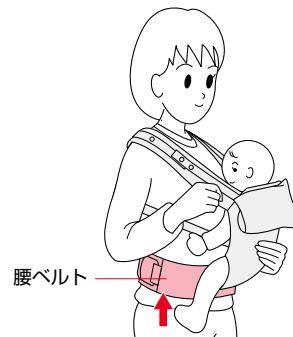
- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| ①お子さまの頭部が装着者の視界の妨げにならない | ⑥ジョイントベルトを調節している |
| ②お子さまの両腕が出ている | ⑦肩バックルが確実にとまっている |
| ③ハーネスのバックルが確実にとまっています | ⑧肩ベルトを調節している |
| ④お子さまの両足が出ている | ⑨腰バックルが確実にとまっている |
| ⑤ジョイントバックルが確実にとまっている | ⑩腰ベルトを調節している |
| | ⑪腰ベルト・肩ベルトの先端がゴムベルトの上側に引き出している |



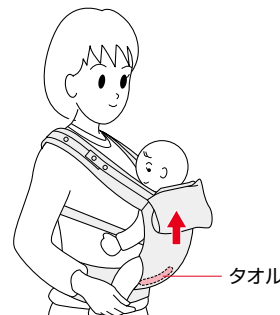
・鏡に映して、抱っこの状態を確認する。
正しく装着されていないと、お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

月齢が小さい時

- ・お子さまの月齢が小さいうちは、腰ベルトを
高い位置でとめると、より安定します。



- ・お子さまのお尻の下にタオルを入れ、高さを
調節してください。



おやすみカーテン

- ・お子さまが寝た時などに使用すると首が安定します。
・風よけや日差しよけにもなります。

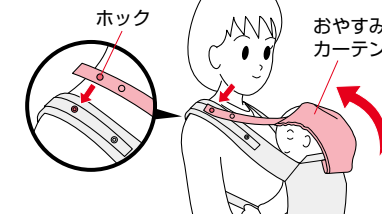
〈調節方法〉

- お子さまの成長に合わせて〈A〉浅く、
〈B〉深く、どちらかで調節してください。

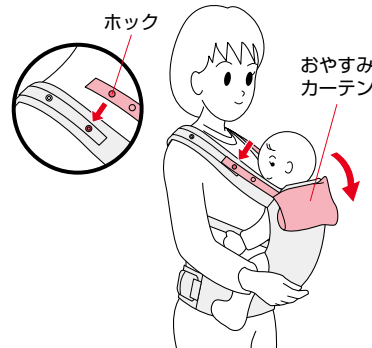
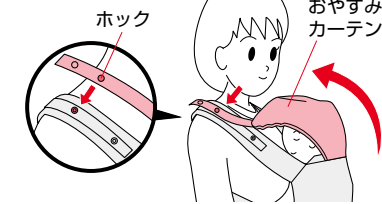
〈使用しない時〉

- ホック位置を下げて付け、おやすみ
カーテンを二つ折りにする。

〈A〉浅く



〈B〉深く



・おやすみカーテンを使用する際は、特にお子
さまの様子に注意する。
気道がふさがると窒息するおそれがあります。



・お子さまが眠って後ろに振り返る場合は使用
を中止してください。

おんぶの装着方法

(つづく)

- ①腰バックルとジョイントバックルを外す。
- ②お子さまを乗せて、ハーネスのバックルをとめ、ベルトを調節する。

- ③左右の肩ベルトをかける。

- ④前かがみの体勢で、お子さまを背負い、腰バックルをゴムベルトに通し、腰ベルトの先端をゴムベルトの上側に引き出す。

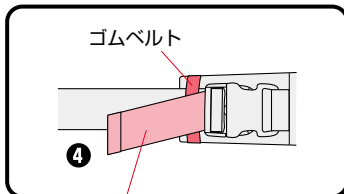
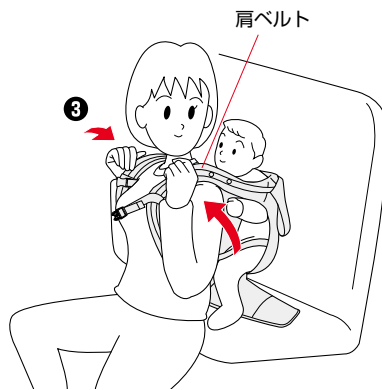
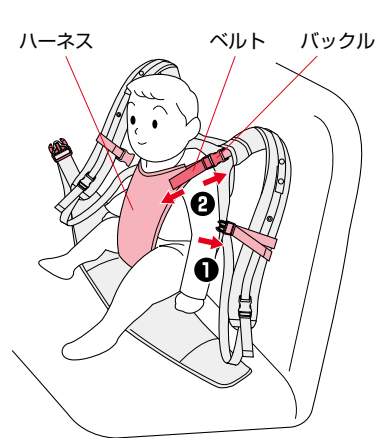
- ⑤お子さまのお尻の位置が腰ベルトより高くなるように調節する。
(左右の肩ベルトを調節したり、腰ベルトの位置を下げる。)

- ⑥腰ベルトを調節する。
- ⑦あまったベルトをゴムでまとめる。
- ⑧ジョイントバックルをとめ、ジョイントベルトを調節する。

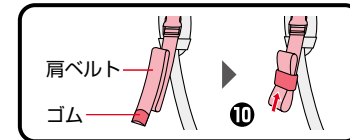
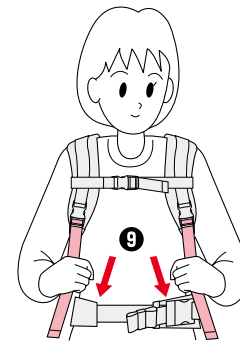
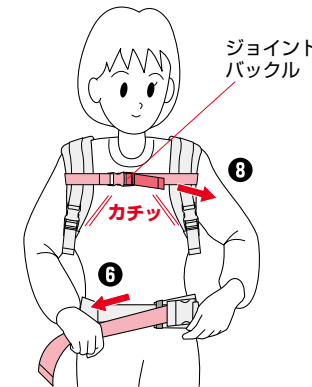
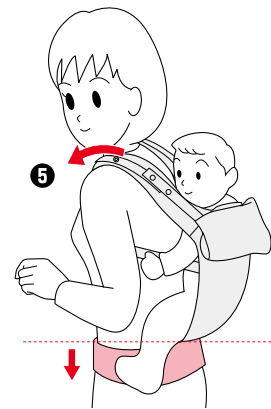
- ⑨左右の肩ベルトを調節する。
- ⑩あまったベルトをゴムでまとめる。

アドバイス

・お子さまの成長に合わせて、ハーネスのバックルを腕の上から又は、腕の下からとめる。



腰ベルトの先端をゴムベルトの上に出す



警告

- ・お子さまを乗せる時は、必ず安全な場所で行う。特に、ひとり座りができる前のお子さまをおんぶする際には他の人に手伝ってもらいより安全です。不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
- ・ハーネスを外した状態で使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。

警告

- ・お子さまが反り返ったり、体を丸めて抱っこひもに潜り込み、両足が外に出ていないなど、不自然な姿勢をとらせない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。
- ・お子さまの状態に注意しながら使用する。気道がふさがると窒息するおそれがあります。

注意

- ・お子さまの足が腰ベルトと装着者の間に挟まらないように注意してください。

アドバイス

・お子さまが装着者の腰に安定する位置にする。

アドバイス

・肩や腰に負担がかかる場合は肩ベルト、腰ベルトを調節しなおしてください。

おんぶ

首すわり〜体重 15 kg

おんぶ

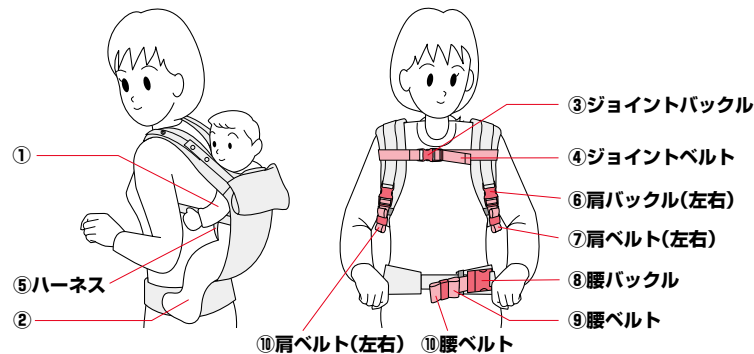
首すわり〜体重 15 kg

おんぶの装着方法 (つづき)

- ①鏡に映して、おんぶの状態を確認してください。
※正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。

おんぶの確認

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------|
| ①お子さまの両腕が出ている | ⑥肩バックルが確実にとまっている |
| ②お子さまの両足が出ている | ⑦肩ベルトを調節している |
| ③ジョイントバックルが確実にとまっている | ⑧腰バックルが確実にとまっている |
| ④ジョイントベルトを調節している | ⑨腰ベルトを調節している |
| ⑤ハーネスのバックルが確実にとまっていてベルトを調節している | ⑩腰ベルト・肩ベルトの先端はゴムベルトの上側に出ている |



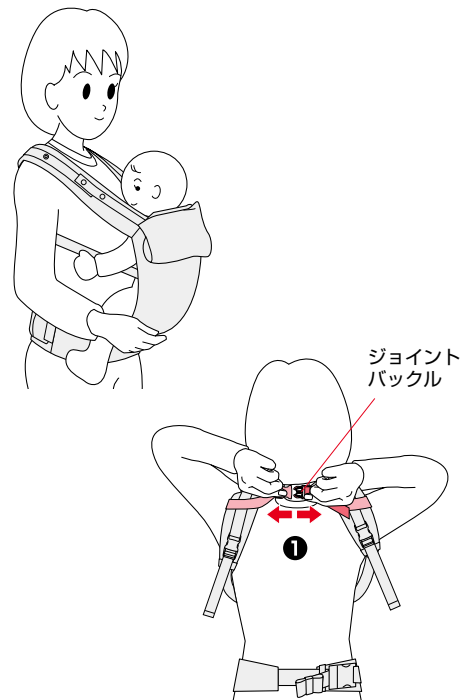
・鏡に映して、おんぶの状態を確認する。
・お子さまが反り返ったり、体を丸めて抱っこひもに潜り込み、両足が外に出ていないなど、不自然な姿勢をとらせない。お子さまが落下したり、けがをされるおそれがあります。
正しく装着されていないと、お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。



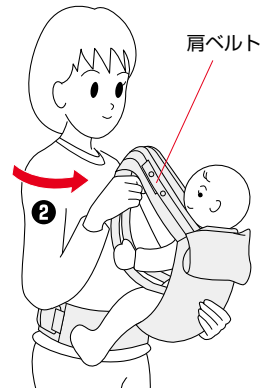
・装着者が痛みや不快を感じた場合は使用を中止してください。特に、授乳期のお母さまは、乳房を圧迫するおそれがあります。

タテ抱っこからおんぶへ

- ①タテ抱っこの状態でジョイントバックルを外す。

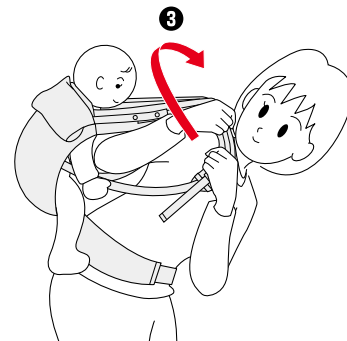


- ②左右の肩ベルトを肩から外し、まとめる。



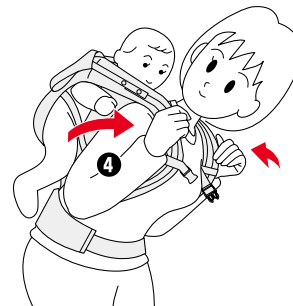
・抱っこからおんぶへ変える時は、必ず安全な場所で行う。他の人に手伝ってもらおうとより安全です。
不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。

- ③肩ベルトをしっかり持ち、前かがみの姿勢になり、お子さまを支えて背中側にまわす。



・お子さまの両足が出ていることを確認する。
お子さまの両足が出ていないとお子さまが落下したり、けがをされるおそれがあります。
・お子さまの状態に注意しながら使用する。
気道がふさがると窒息するおそれがあります。

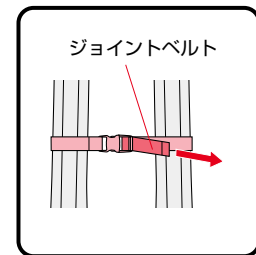
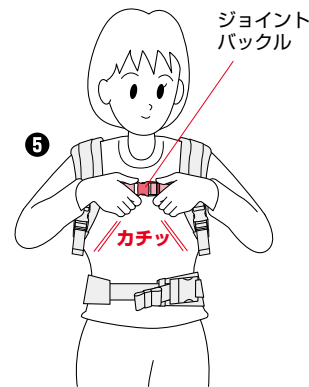
- ④左右の肩ベルトをかける。



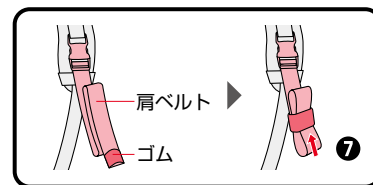
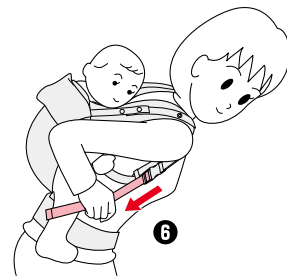
(つづく)

タテ抱っこからおんぶへ (つづき)

- ⑤ ジョイントバックルをとめ、
ジョイントベルトを調節する。



- ⑥ 左右の肩ベルトを調節する。
⑦ あまったベルトをゴムでまとめる。



アドバイス

・肩や腰に負担がかかる場合は肩ベルト、腰ベルトを調節しなおしてください。

- ⑧ 鏡などに姿を映して、おんぶの状態を確認してください。(P25参照)
正しくできていない場合は、もう一度
取り付け、調節を行ってください。



警告

・お子さまが反り返ったり、体を丸めて抱っこひもに
潜り込み、両足が外に出ていないなど、不自然な姿
勢をとらせない。お子さまが落下したり、けがをす
るおそれがあります。
正しく装着されていないと、お子さまが落下したり
思わぬ事故につながるおそれがあります。

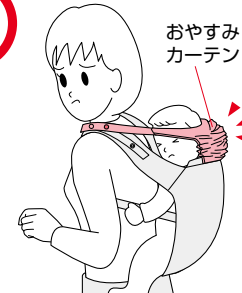
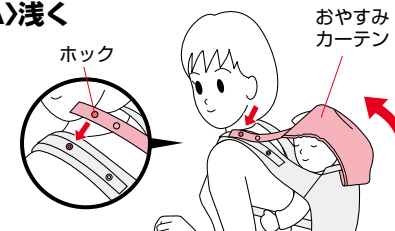
おやすみカーテン

- ・お子さまが寝た時などに使用すると首が安定します。
・風よけや日差しよけにもなります。

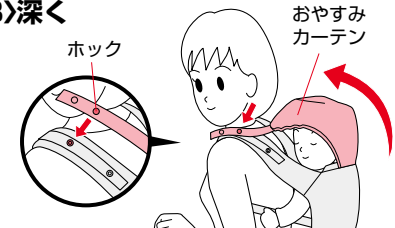
〈調節方法〉

- お子さまの成長に合わせて〈A〉浅く、〈B〉深く、どちらかで調節してください。

〈A〉浅く



〈B〉深く



アドバイス

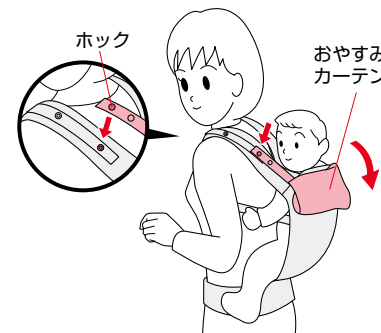
・鏡などに姿を映して、おやすみカーテンがお子さまの
頭を覆っていることを確認してください。
正しくできていない場合は、もう一度調節しなおして
ください。

警告

・おやすみカーテンを使用する際は、特にお子さまの様子に注意する。
気道がふさがると窒息するおそれがあります。

〈使用しない時〉

- ホック位置を下げて付け、おやすみ
カーテンを二つ折りにする。

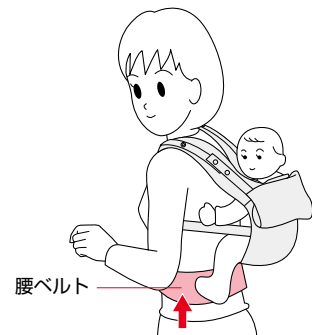


注意

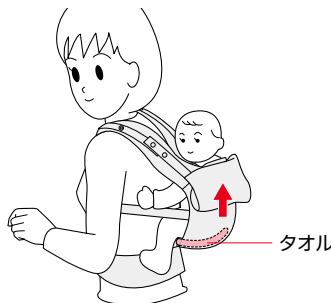
・お子さまが眠って後ろに反り返る場合はおんぶの
使用を中止してください。

月齢が小さい時

- ・お子さまの月齢が小さいうちは、腰ベルトを高い位置でとめると、より安定します。

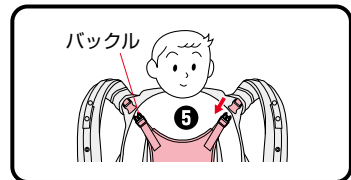
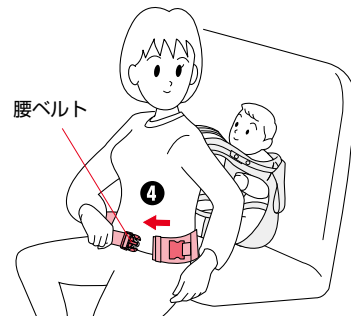
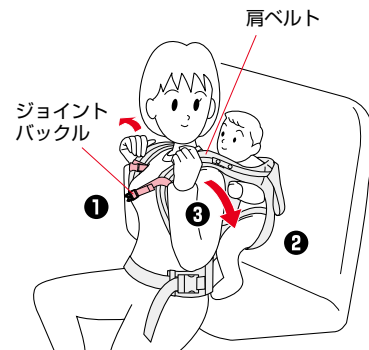


- ・お子さまのお尻の下にタオルを入れ、高さを調節してください。



おんぶの降ろし方

- ①ジョイントバックルを外す。
- ②お子さまをゆっくり降ろす。
- ③肩ベルトを外す。
- ④腰ベルトを外す。
- ⑤ハーネスのバックルを外す。



アドバイス

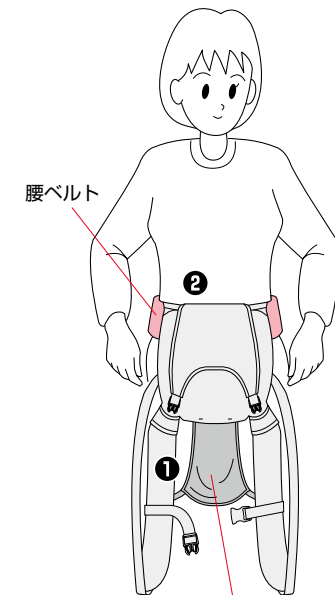
- ・イスが無い場合は、おんぶからタテ抱っこに戻して(P27 ⑤→P26 ④→⑤→② 参照)、安全な場所にお子さまを降ろしてください。



- ・お子さまを降ろす時は、必ず安全な場所で行う。他の人に手伝ってもらおうとより安全です。
不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。

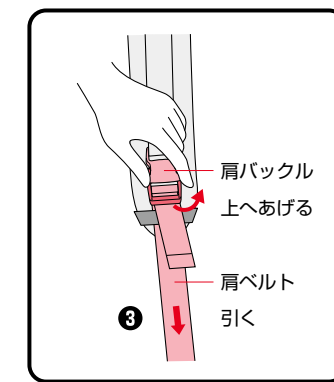
前向き抱っこの装着方法

- ①おやすみカーテンのホックをとめる。
(P22「使用しない時」参照)
- ②P18「タテ抱っこの装着方法①～③」を参照して腰ベルトをとめる。



- ③肩ベルトを長めに調節する。

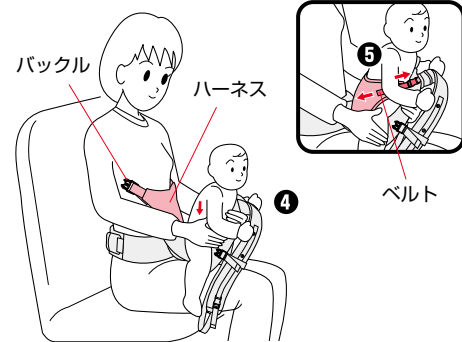
〈長くする時〉



アドバイス

- ・肩ベルトを長めに調節すると、お子さまをのせやすくなります。

- ④お子さまの体を前向きに抱っこひもに乗せる。
- ⑤片方の手でお子さまを支え、ハーネスのバックルをとめ、ベルトを調節する。



- ・お子さまが反り返ったり体を丸めて抱っこひもに潜り込み、両足が外に出ていないなど、不自然な姿勢をとらせない。お子さまが落下したり、けがをするおそれがあります。
- ・お子さまを乗せる時は、必ず安全な場所で行う。不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。
- ・ハーネスを外した状態で使用しない。お子さまが落下し、けがをするおそれがあります。

ひとり座り、体重 13 kg

前向き抱っこ

前向き抱っここの装着方法（つづき）

- ⑥片方のお子さまを支え、左右の肩ベルトを両肩にかける。

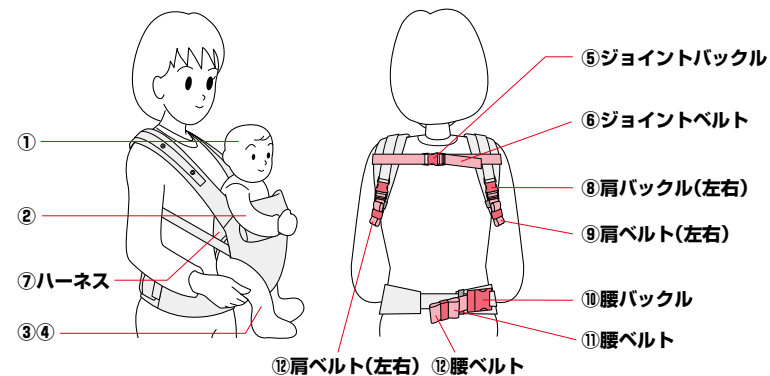
- ⑦首の後ろでジョイントバックルをとめ、ジョイントベルトを調節する。

- ⑧肩ベルトを調節する。
⑨あまったベルトをゴムでまとめる。

- ⑩鏡に映して、抱っこの状態を確認してください。
※正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。

前向き抱っこの確認

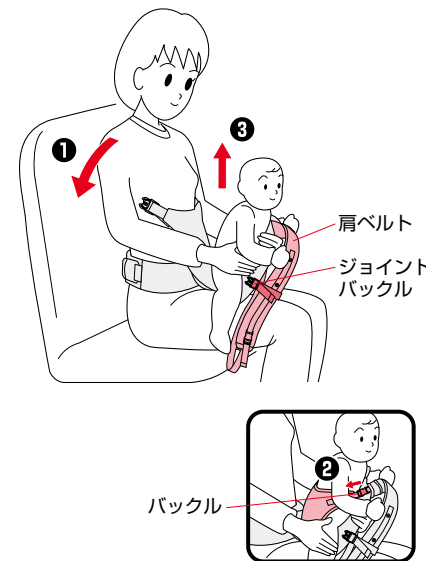
- ①お子さまの頭部が装着者の視界の妨げにならない
②お子さまの両腕が出ている
③お子さまの両足が出ている
④お子さまが両足を自由に曲げることができる
⑤ジョイントバックルが確実にとまっている
⑥ジョイントベルトを調節している
⑦ハーネスのバックルが確実にとまっていてベルトを調節している
⑧肩バックルが確実にとまっている
⑨肩ベルトを調節している
⑩腰バックルが確実にとまっている
⑪腰ベルトを調節している
⑫腰ベルト・肩ベルトの先端はゴムベルトの上側に出ている



警告 鏡に映して、前向き抱っこの状態を確認する。
正しく装着されていないと、お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

前向き抱っここの降ろし方

- ①片方のお子さまを支え、安全な場所に座り、ジョイントバックルを外し、肩ベルトを外す。
②ハーネスのバックルを外す。
③お子さまを降ろす。



警告 お子さまを降ろす時は、必ず安全な場所で行う。
不安定な場所などでは、お子さまが落下するおそれがあります。

アドバイス

・お子さまの腕は肩ベルトの外側でも内側でも構いません。ただし外側に出ている時に、お子さまが前のめりになる場合は、肩ベルトの内側に腕を入れてください。

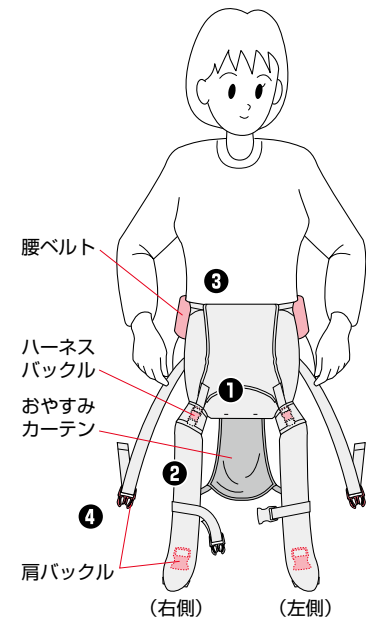
アドバイス

・肩や腰に負担がかかる場合は肩ベルト、腰ベルトを調節しなおしてください。
・前向き抱っこの使用は 30 分程度を目安としてください。

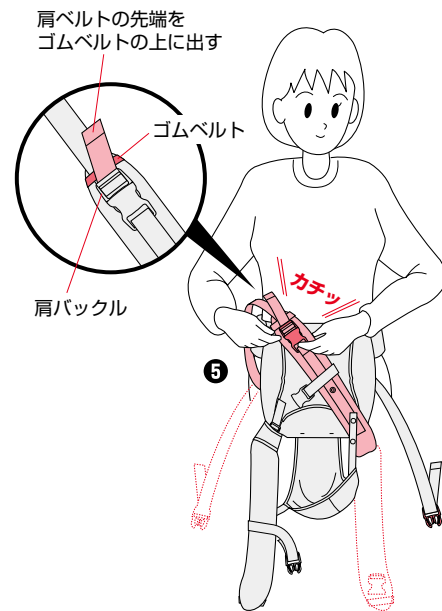
腰抱っこの装着方法 (右抱っこ、左抱っこ、どちらでも使用できます。ここでは、右抱っこで説明しています。)

(つづく)

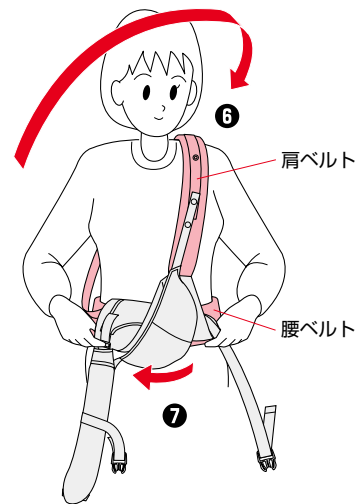
- ①ハーネスバックルをとめる。
- ②おやすみカーテンのフックをとめる。
(P22「使用しない時」参照)
- ③P18「タテ抱っこの装着方法①～③」を
参照して腰ベルトをとめる。
- ④左右の肩バックルを外す。



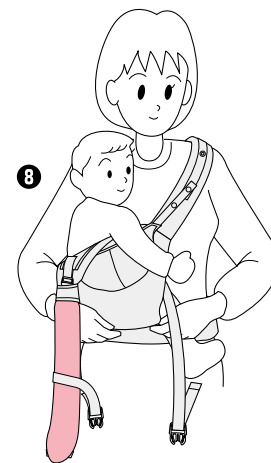
- ⑤右側の肩バックルを左側の肩バックル
にあるゴムベルトに通し、バックルを
とめ、肩ベルトの先端をゴムベルトの
上側に引き出す。



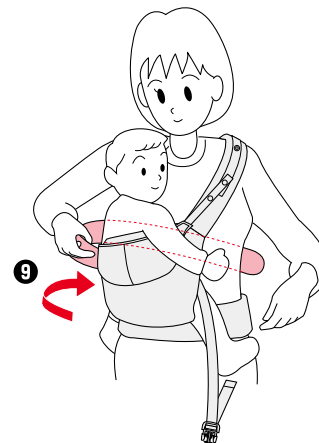
- ⑥右腕と頭を通し、肩ベルトをななめに
かける。
- ⑦腰ベルトを右側にまわす。



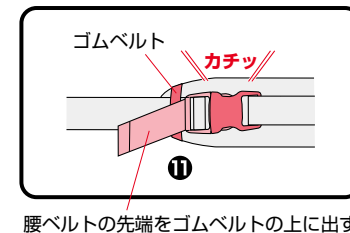
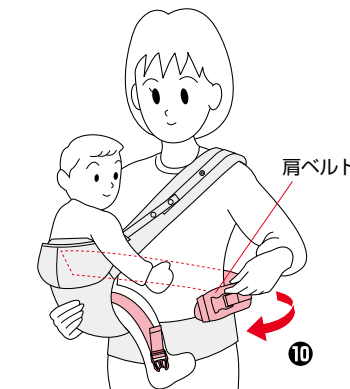
- ⑧お子さまを抱き上げて、抱っこひもに
乗せる。



- ⑨背中側から右側の肩ベルトを腰に
まわす。



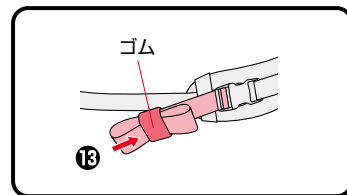
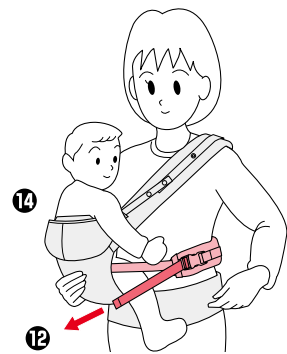
- ⑩腰にまわした肩ベルトを左側から出す。
- ⑪肩バックルをゴムベルトに通し、バック
ルをとめ、肩ベルトの先端をゴムベルト
の上側に引き出す。



腰ベルトの先端をゴムベルトの上に出す

腰抱っこの装着方法（つづき）

- ⑫肩ベルトを調節する。
- ⑬あまったベルトをゴムベルトでまとめる。
- ⑭お子さまの位置を調える。



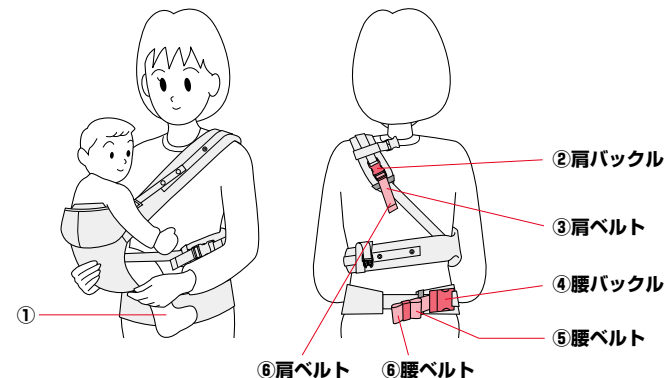
アドバイス

・肩や腰に負担がかかる場合は肩ベルト、腰ベルトを調節しなおしてください。

- ⑮鏡に映して、抱っこの状態を確認してください。
※正しくできていない場合は、もう一度取り付け、調節を行ってください。

腰抱っこの確認

- ①お子さまの両足が出ている
- ②肩バックルが確実にとまっている
- ③肩ベルトを調節している
- ④腰バックルが確実にとまっている
- ⑤腰ベルトを調節している
- ⑥腰ベルト・肩ベルトの先端はゴムベルトの上側に出ている。



・お子さまを手で支えて使用してください。



・お子さまが反り返ったり、体を丸めて抱っこひもに潜り込み、両足が外に出ていないなど、不自然な姿勢をとらせない。お子さまが落下したり、けがをすることがあります。
・鏡に映して、腰抱っこの状態を確認する。
正しく装着されていないと、お子さまが落下したり思わぬ事故につながるおそれがあります。

Q&A

Q ハーネスは子どもの腕の上でとめるべきですか？それとも腕の下でとめるべきでしょうか？

A お子さまの成長にあわせてどちらでもご使用いただけます。
目安として腰すわり前のお子さまには、ハーネスのバックルを腕の上から、腰すわり後のお子さまには、ハーネスのバックルを腕の下からとめてあげるようにしてください。

Q タテ抱っこの時、体が埋もれる感じになり、子どもの顔が見えない状態ですが、このまま使用してもいいですか？

A お子さまの身長に対して背あて部分が長い場合は、お子さまのお尻の下にタオルなどを敷いて、お子さまの高さを調節してあげてください。また、腰ベルトを少し高めのウエストあたりに装着するようにしてください。(P22, P29参照)

Q 腰ベルトをどのあたりに装着すればよいですか？

A 腰ベルトは、腰骨より少し高い位置に装着してください。その際、お子さまのお尻が腰ベルトより下がらないように脇ベルトの長さも調節してください。使用者やお子さまの身長・体格にもよりますが、腰ベルトはなるべく水平になるように調節してください。

Q&A

Q 新生児シートの取り付けベルトのホックが外れやすいですが…。

A 新生児シートと腰ベルトの位置が離れすぎると外れやすくなります。腰ベルトを少し上にあげて、お子さまが下がりすぎない様、肩ベルトを調節してください。

Q ベルトの余りが長く垂れ下がって気になります。

A ベルトはゴムでまとめることができます。(P9, P10, P13参照)

Q タテ抱っこ時、子どもの肩が外に出てしまうのですが、大丈夫でしょうか？

A お子さまの肩はできるだけ外に出ない方がより安全です。どうしても出てしまう場合は、ベルトの緩みがないかを必ず確認したうえでご使用ください。ただし、特に腰すわり前のお子さまは上半身が不安定ですので、手で支えるようにしてあげてください。

Q 抱っこひもの生地と子どもの肌が触れる部分が赤くなる時があるのですが…。

A お子さまのお尻が、ベルトより下がっていたり、着衣や紙おむつなどが原因で赤くなっている場合があります。再度、装着状態をご確認ください。それでもお子さまの肌に抱っこひもの跡がついたり、肌がこすれて赤くなる場合は、肌の露出部を覆う服を着せるか、露出部にタオルなどを当てて、抱っこひもが直接触れないようにしてください。

点検について

- ・ご使用の前に、バックルなどの部品が破損したり、ベルトや生地などに破れ、ほつれ、きずが無いことを確認してください。異常がある状態で使用すると、事故につながるおそれがあります。

お手入れについて

〈軽度の汚れの場合〉

- ・湿らせた布でたたいて汚れを落としてください。

〈洗濯する場合〉

本体・新生児シート



※洗濯ネット使用、ねじり又は絞り禁止



・抱っこひもおよび、新生児シートは乾燥機を使用しないでください。
・脱水機の使用は短時間(2～3分)にしてください。バックルなどの破損や変形につながるおそれがあります。
・バックルは必ずとめてから洗ってください。バックルが破損や変形につながるおそれがあります。
・他の物とは別に洗濯してください。色落ちし移染するおそれがあります。
・蛍光剤入りの洗剤、漂白剤は使用しないでください。
・漬け置きしないでください。
・洗濯後、充分乾燥させて使用してください。乾燥が不十分な場合、カビなどが発生するおそれがあります。
・余った脇ベルトなどをゴムでまとめている場合は外してから洗ってください。ゴムがのびてしまうおそれがあります。
・洗濯による色落ちなどは保証の対象外となります。

SGマーク制度について



SGマーク付き製品は安全性が高く、安心してお使いいただけるものですが、製品安全協会では損害保険会社と生産物賠償責任保険の契約を結んでおり、SGマーク付き製品の欠陥により、人身被害が生じたと認められる場合、事故原因、被害の程度などに応じて、賠償措置を実施します。

ただし、抱っこひもの場合、ご購入後3年以内の製品が対象となります。

〈抱っこひものSGマーク制度の適用対象月齢は以下のとおりです。〉

- ・ヨコ抱っこ : 新生児期(0カ月)から4カ月(体重7kg)まで
- ・腰抱っこ : 7カ月から36カ月(体重15kg)まで
- ・タテ抱っこ : 4カ月から24カ月(体重13kg)まで
- ・おんぶ : 4カ月から36カ月(体重15kg)まで
- ・前向き抱っこ : 7カ月から24カ月(体重13kg)まで

賠償についてのご注意

SGマーク被害者救済制度は、SGマーク付き製品の欠陥によって傷害などの身体的な損害(人的損害)について賠償する制度です。この制度は、SGマーク付き製品そのものが故障した場合に補償するものではなく、また、SGマーク付き製品の欠陥によって他の物に生じた損害(物的損害)を賠償するものではありません。

製品の欠陥によって事故が起きた場合

事故が起きたら、すぐに製品安全協会へ連絡してください。

連絡後、製品安全協会から送付されてくる事故発生届等を提出していただきます。(原則として60日以内)

製品安全協会 〒110-0012 東京都台東区竜泉2-20-2 ミサワホームズ三ノ輪2階 TEL 03-5808-3300

〈事故の届出に必要な項目〉

- ①事故の原因となったSGマーク表示の製品
イ)製品の名前、SGマーク番号 ロ)製品の購入先、購入年月
- ②事故発生の状況
イ)事故発生年月日 ロ)事故発生場所 ハ)事故発生状況
- ③被害の状況
イ)被害者の氏名、年齢、性別、職業、住所 ロ)被害の状況と程度

保証とアフターサービスについて

- ・保証期間中(購入日より1年間です。)に部品の欠品、不良加工など弊社の責任によるもの、取扱説明書や注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合には、保証規定にもとづき無償にて対応を致します。ただし、部品の色・柄などについては、ご希望に添えない場合があります。また、製造中止後の製品については、対応出来ないこともあります。

アフターサービスについての連絡先

ニューウェルブランズ・ジャパン合同会社

〈電話連絡先〉

ベビー用品 お客様サポートセンター TEL 0120-415-814

携帯電話からご利用の場合(通話料お客様負担) TEL 0570-004-155

受付時間: AM10:00~PM5:00(土、日、祝日、弊社所定休日を除く)

MEMO
